

## 側弯症外来のご案内

当院では従来から**鎌田 修博副院長**を中心として側弯外来を実施し、専門的診察や治療方針のご相談などを行ってまいりましたが、2018年4月より東京都港区の国際医療福祉大学三田病院から側弯症専門医である**石川 雅之医師**が赴任し、従来にも増して側弯外来を拡充させることとなりましたのでお知らせいたします。もちろん石川医師は側弯症以外にも脊椎疾患全般に経験豊富で、脊椎脊髄病学会認定の指導医として治療全般を担当いたします。

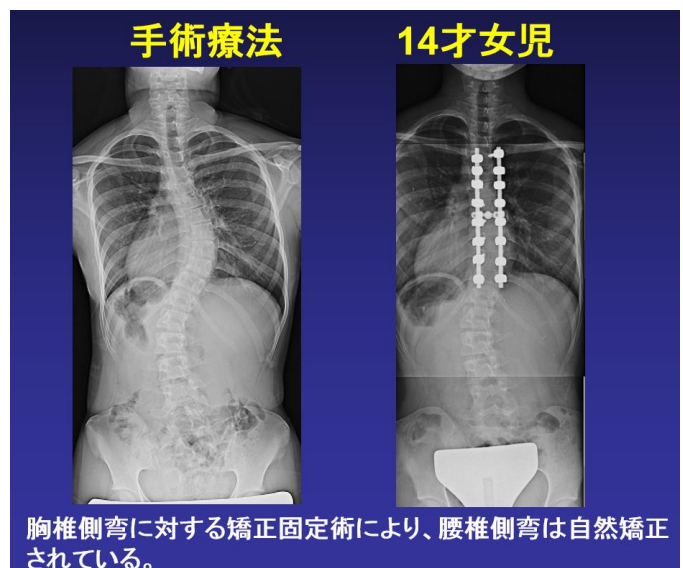
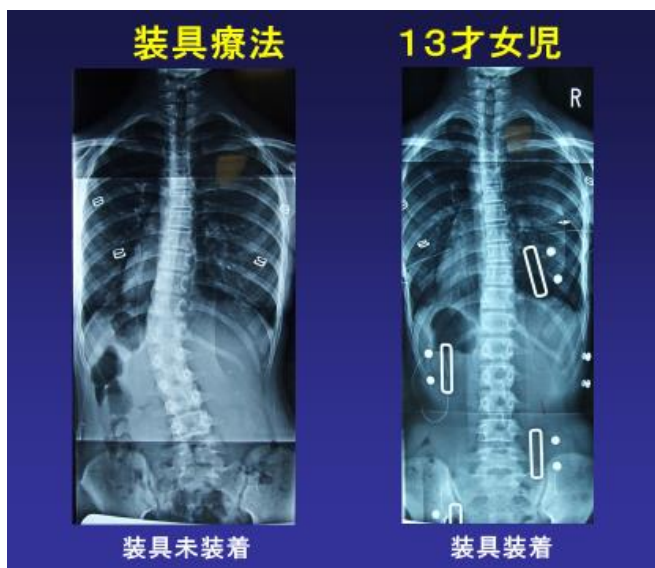
当院を初診されました患者さんには、スライド提示による側弯症の病態および自然経過、治療法の説明を詳細に行い、ご自身の側弯症がどのような状態であるかを、ご本人、親御さんに十分ご理解していただけるよう心掛けております。患者さんや親御さんが側弯症の経過をご理解されますと、不安は解消され、前向きになられている様子も拝見いたします。軽度の側弯症患者さんでも、責任をもって対応させていただきます。

### 当院側弯症外来の治療方針

思春期脊柱側弯症の治療として、装具療法と手術療法を行っております。

**装具療法**は主に25度から40度の側弯症に対して、側弯の進行予防を目的として行っております。成長終了時に側弯を30度以下にコントロールできた場合、成人期以降に側弯が進行することは少ないと側弯症の自然経過により指摘されております。したがって、側弯を30度以下にコントロールすることを目標として、徹底した装具の調整、装具装着の指導を行っております。装着の状況にもよりますが、ある程度の矯正効果も得られております。

一方、さらに進行した側弯症に対しては手術療法を行っております。**手術療法**では椎弓根スクリューを主なアンカーとした手術法により、良好な矯正効果が得られております。入院期間は2週間程度、術後の装具は不要と、患者さんの負担も軽減しております。



## 石川 雅之 副部長就任のお知らせ



## ◆プロフィール

1993年慶應義塾大学卒業後、日本では側弯症治療の第一人者である鈴木信正先生、慶應義塾大学整形外科教授松本守雄先生に師事し、側弯症治療の研鑽を積んでまいりました。

米国留学中（Hospital for Special Surgery/Scoliosis Service、ニューヨーク州、2004-2005年）には、Dr. Boachie-Adjei（元Scoliosis Research Society会長）のもとで様々な側弯症治療を経験いたし、診療に生かしてきました。

2018年3月までは、東京都港区の国際医療福祉大学三田病院に勤務しており、これまでに100例以上の特発性/先天性側弯症手術を執刀し、良好な手術成績を得ております。

## 側弯症外来

鎌田医師担当：金曜日（第1）午後2時半—3時半

石川医師担当：月曜日（毎週）午後2時—3時半、  
土曜日（第2, 4週のみ）午前9時—11時

## 紹介初診 診療予約のご案内

## 1 医療機関からの紹介初診予約の場合

- ① 地域医療連携課にご連絡ください。 **直通電話 045-221-8292**  
予約希望日時、指定医師の空き状況を確認し、予約枠を確保いたします。  
平日は8:30~17:00、第2・4土曜は 8.30~12:30 です。
- ② FAXで情報をお送りください。 **FAX 045-221-8206**  
FAXによる情報提供には「患者紹介状ファクシミリ用」をご利用ください。  
別の用紙の場合にも、同様の内容の記載をお願いいたします。

## 2 患者さん/親御さんから予約電話をされる場合

医療機関から紹介状を頂き、患者さんがご自身で予約の日程調整をされる場合には13時~17時（月~金）地域医療連携課直通電話にご連絡いただき、ご予約ください。予約方法を患者さんにお知らせする説明書「診療予約のご案内」がございます。必要に応じてお送りいたしますので、ご連絡ください。

